

アジア十三カ国、約四百人の医師で作る民間ネットワーク「アジア医師連絡協議会(AMDA)」

代表(西モ)は、災害発生時などに「アジア多国籍医師団」を緊急派遣できる態勢づくりを進めている。NGO(非政府組織)活動の一つで、来年五月から実施の予定。テストケースとして今月末か

岡山の民間ネットワーク

ら、日本、ネパール、バングラデシュの三方国医師団をバングラデシュ・チッタゴン市に派遣。五人が一チームになり、交代でミャンマー難民(ことば欄参照)に対する医療協力をする。

AMDAは、一九八四年に、岡山市で内科医院を経営する菅波さんの呼びかけで設立。会費や企業からの基金を財源として活動。湾岸戦争難民や

フィリピンのピナツポ火山噴火被災者救援プロジェクト、留学生などの在日外国人のための医療ネットワークづくりなどに取り組んでいる。

アジアへ「多国籍医師団」

来年5月から、災害時など

師らと合流。AMDAバングラデシュ支部の医師らと共同で医療キャンプを設置。軍事政権下にあるミャンマーから流出した難民の病氣治療や予防接種などにあたる。派遣費用は五百万円を目標に募金する。

医師団派遣と同時に、来年のアジア多国籍医師団事業実施に備えてアジ



菅波 茂医師

ア各地での「拠点」づくりに取り組む。菅波代表は「アジアの医師がともに緊急医療援助に汗を流し、お互いの信頼感を育てていきたい。日本の国際貢献の新しい形となるのではないか」と話している。

三方国医師団の第一次チームには、日本からは津曲兼司・菅波内科医院副院長(三モ)二人が参加。四月十日にチッタゴン入りしてネパールの医

問い合わせは、AMDA事務局(0862・847676)菅波内科医院内)。